

きみはいくさに征ったけれど

秋田南定・土方与三 記念
青年劇場

言わせて! 今日の芝居

◎五十字劇評 No.55

【青少年劇場例会参加者】

▼難しい話かなと思っただけ
ど笑えるところも多々あり
とても楽しかったです。宮
斗は最初、自信のなさだっ
たり、消えたいと思ってい
ることが見て伝わってきた
けど、浩三や伊勢の人達に
出会ってどんどん変わって

いく姿が姿勢や喋り方から
わかりました。舞台も変わ
らないし、たった八人とい
う少ない人数ですぐに場面
を想像できるのが本当にす
ごいなと思いました。私も
今、舞台に立つため、練習
しています。経験がなく困
ることばかりですが、今回
観劇して、セリフとセリフ
の間や相手との距離感、動
き方、表情などがたくさん
のことを学ぶことができました。
本当に素晴らしいもので
した。ありがとうございます
ました。(高校三年生)

▼人生に意味を与えるのは
難しいことです。人生が失
敗と不幸に満ちているとき、
人生のどん底に落ちたとき、
解決策の一つとして、自殺
を考える人もいます。この
劇は、人生は素晴らしいも
のだということを思い出さ

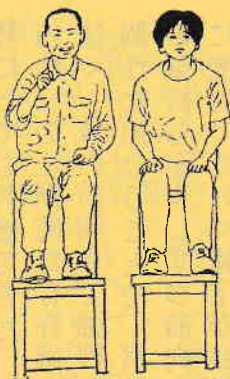
せてくれます。どん底に落
ちたら、しばらく休憩し、
自分の人生をしっかり観察
し、恐れずに他の人に助け
を求めする必要があります。
この劇で、人生は短いこと
も学びました。ですから、
私たちは毎日、自分の人生
をしっかり受け入れる必要
があります。
(福祉専門日本語学科学生)

▼楽しかったです。日本で
初めて、演劇を鑑賞しまし
た。内容はわかりやすいで
すが、方言が使われている
分だけ、理解できませんで
した。(同前)

▼浩三さんの生活、いつも
の笑顔、諦めなかったこと
に深く感動しました。照明
も素晴らしいです。特に、
星のシーンはきれいだ
と思います。戦争はやはり

悲しいもので、戦争のない
世界を祈っています。(同前)

▼初めて本格的な舞台を観
ることができました。私は
劇を本当に楽しんでいまし
た。涙を流しました。そして、
人生について考えさせられ
ました。主人公は、たくさ
んの人に出会って救われま
した。でも、現実の世界では、
それを乗り越えられる人は
ほんの一握りです。ちよっ
と悲しい気がします。(同前)



▼この演劇は私に、とても大きな感動を与えてくれました。いじめられてはいませんが、最近、生きていても意味がない、何もやる気が起きないと感じていました。この演劇を観て、生きるということはどういうことか、自分の存在がいかに小さくても、周りの人にとりだけ影響を与えているか、改めて考えさせられました。これからは、自分の人生を精一杯生きていこうと思います。

(同前)



▼すごく楽しかったですが、方言とかおぼあさんの言い方はちよっと難しいです。

(同前)

【二〇代】

▼良い芝居を観る時は体力を使うとは正にでした。互いの感情や表情が呼応して、引き込まれる熱い舞台でした。浩三と姉の出発前のやり取りに心打たれました。二人だけの少し温かい時間、二人らしい別れ方。最後に笑い合った二人の気持ちかがシツと客席にもが伝わってきました。

(女性)

【五〇代】

▼幽霊として登場した竹内浩三のキャラクターは、魅力的で深刻になりそうなテーマを明るく前向きなものにした。

(男性)

【六〇代】

▼死にたい高校生が戦死した兵士に出会う。物語が腐にならないか心配だったが杞憂に終わった。青年劇場の役者の力と演出力に感心した。

(男性)

▼長々と話すセリフよりも、一編の詩が心情を軽やかに描き出し、ともすれば重い辛い話を悲しさだけを伝えてくれた気がします。(男性)

▼現代の様々な問題を深く、でも軽やかに考えさせられた。あなたが居たから生きて来られた。生きる事は楽しいね。重たい言葉です。

(女性)

▼いじめを受けている高校生の宮斗を主人公にするこ

きながらそこに寄り添っていくような作者の真摯な姿勢にとっても共感できた。竹内浩三の圧倒的な存在感が凄く、彼の前向きで強烈な個性に出会うことで、宮斗の気持ち少しづつ前向きに変わっていく様子が良く描かれていた。またそれに呼応して担任教師や母親も変わっていく描き方も良い。抱えている困難は一挙に解決されることはないが、この物語のようにあるきつかけから少しづつ前向きに進んでいくことに共感できた。また、竹内浩三という才能ある人物が戦争により一瞬に消えてしまう最後の場面に、「あの戦争さえなければ」という思いを強くした。観終わつたあとも余韻が残る素晴らしい舞台だった。

(男性)

▼死にたいと思っていた宮斗が浩三の詩集と出会ったことで自分の心の中の本当の声を聞き、生きる力を取り戻していく様がとても魅力的に表現されていて感動しました。

(女性)

▼芝居を観て先の見えない現代とびつたりとあわさり、どんな時でも生きる希望と恥ずかしくない生き方を私はしているだろうかと自問する、深い深い芝居でした。

(女性)

▼戦場での役者の動きに臨場感があり、のめり込んでしまい感動！いじめ・戦争のない平和な世界を作らねば！

▼「いじめ」は深刻な問題。宮斗が追いつめられる様子はリアルに今の学校を表し

ている。そこに戦時中の浩三が声をかける。「詩」や恋に情熱をかたむけるが、戦争に行く道が決められていた。若者がいくさに行く道しか選べない世の中にしてはいけない。学校で命を失うことを許してはいけないと思いました。

(女性)

▼脚本も演出も、そして演技も素晴らしく、最後まで楽しんで観ることが出来、心に残る舞台だと思いました。

(女性)

▼生きる意味。テーマが明解。少ない舞台装置と、役者の声と動き。学校演劇として、多くの若者に観てほしい！

(女性)

【七〇代】

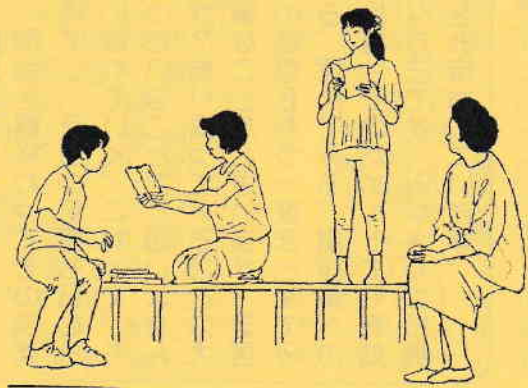
▼自分に正直に個を生きることを欲求した浩三さん、いくさに征かされ、人を殺し、殺された。今は無表情なバクダンがとんできて物をこわし、たくさんの人を殺す。それが戦争なのに戦争がなくならない。どうして？どうして？

▼多くの人に観てもらいたい!!と強く思える作品に出会いました。特に高校生に観せたい!!青年劇場のまっすぐな姿に大きな拍手を送ります。

(女性)

▼レコードで聴くエリック・サテイにチャイコフスキー。銅鑼に紹介の瑞々しい詩やイラスト。失われた浩三の命がいたましい。

▼台本を読んでいたはずなのに、スタートの舞台は屋上には見えなかった。後ろの方に街の灯りがあっても良かったのでは？二十三歳で戦死した竹内浩三の幽霊が彼の詩を絡めて、いじめに遭って自殺しようとしている高校生の前に現れ話す様子などを観ていて笑えるところがある(台本を読んだ時はかなり泣き怒り笑う)



ところはなかった気がしたの(に)。もちろん泣けるところはありました。学校の担任の先生はすごく反省している様子でしたが、母親はわかっていたのか疑問で終わったが一時間五〇分のラストシーンすごく良かった。詩人竹内浩三がいたことを知らなかった。(女性)

▼素直な高校生が、こんなにも生きづらさを感じる今、竹内浩三に会い少しずつ生きる意味を見出して行く。こんな世の中にしてしまっただ、大人達自分も含めて、反省しなければと思います。(女性)

▼「戦争に行つて死ぬために生まれたんじゃない」人達いっぱい死んで、この時代は平和なのに、やっぱり「死ぬ子」がいっぱいいる。何

をどうしたら良いのかね？胸を痛める人もいっぱいいるの(に)ね。

▼青年劇場のひたむきな姿勢に感動の拍手がおくられたように感じます。歴史に名を残す前の知られざるすごい人をまたひとり演劇で知った。



編集スタッフから

例会を観終わってそのまま帰宅し、芝居の記憶も日に日に薄れていく。これって、もったいなことだと思いませんか？振り返ってみることは大事なことだと思えます。芝居の感想をもう一度まとめてみる、深めてみる。劇評集への投稿はそのためのとても有効な方法です。みなさんの投稿をお待ちしています。